

第42回水資源機構契約監視委員会 審議概要

開催日及び場所	平成30年9月26日(水) ランド・アクセス・タワー22階会議室	
委員	篠原焯夫(弁護士)、清水義彦(大学教授)、毛利栄征(大学教授) 欠席、山梨恵子(水資源機構監事)	
審議対象	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度第1四半期の1者応札の状況について 2. 平成30年度第1四半期における1者応札・1者応募に関する点検について 3. 平成30年度第4四半期における随意契約に関する点検について 	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度第1四半期の1者応札の状況について 2. 平成30年度第1四半期における1者応札・1者応募に関する点検について 	委員	機構事務局
	<p>・1者応札よりもっと深刻なのは、手を挙げてくれなかったらどうしようかということ。1者応札の現状は、公共事業のあり方とかいう、その入札の問題、監視の問題というよりは、やっぱり非常に大切な業務に支障が間近に起こり得るといふ、そういう怖さのほうにむしろ世の中の的にも重視されなければいけないのではないか。1者応札が手続上の問題でおかしいということも、世間的にはそういう面があるけども、これだけの案件が1者応札であるということの違った側面をもっと評価しなければいけないのかなと思う。</p> <p>・1者応札というのは、通常の競争性があるのが望ましい、これは原則的に正しいこと。ただ、やっぱり多分これは1者しか性質上できないであろうということの中にはあると思うので、これは努力してほかの業者を入れたら、もっとまずくいつってしまったということも</p>	

	<p>起こり得るので、やはり原則は原則として、競争性はちゃんと保たなくてはいかぬと思うけども、1者応札全てが悪いということではないと思う。</p>	
<p>3. 平成30年度第1四半期における随意契約に関する点検について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じような頻度でゲートを全部上げているなら、損傷が他のところにはなかったか、同様な傾向はなかったのか。 ・随契一覧表を見て、落札率100%という案件もあるが、結局は見積もり合わせみたいなことをするか。 ・委託金額は、毎年見直しというか、そういうすり合わせをしているのか、この金額の根拠というか、その辺の整理はされているほうが良いと思うが。 ・委託の場合はわかったのだけれども、利根川河口堰の緊急復旧対策が緊急案件で90.7%である。これもやっぱり金額は提示するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・損傷はなかったが、今回全ての軸受けの箇所を開けたところ、グリスが黒く変色していたり、若干滑らかな成分を失いつつあるとか、そういったような状況が全体の4分の1ぐらいで見受けられた。 ・通常の委託の場合は、協議のうえ相手方に金額を提示してもらう。通常の見積もり行為。 ・各委託の案件については、うちの積算基準で設計額を算出し、その範囲内をお願いしている。 ・工事内容がほぼ確定して、積算できる状態になってから通常の見積もりを出してもらう。最後は契約後に作業してもらった結果として、精算変更をする事となる。

○問い合わせ先

埼玉県さいたま市中央区新都心11番地2

ランド・アクセス・タワー内

電話 048-600-6500

水資源機構契約監視委員会事務局

技術管理室契約企画課長

田村 三明 (内線 2251)

技術管理室担当課長

足達 謙二 (内線 4631)